

■ 会頭講演

21世紀の漢方医学：生活習慣病予防治療の新しい可能性を求めて

佐藤 祐造（愛知学院大学心身科学部長）

はじめに

21世紀の今日、医学、医療の現場においては、根拠に基づく医療（EBM）が求められている。また、EBMに基づく創薬の必要性が求められており、医療の各領域において新薬の開発が行われている。

東洋医学・漢方では、医薬・農耕・商業の神とされる神農は草木を採取し、1日に70回も中毒することによって、その効用・毒性を定めたとされている。

糖尿病と漢方

糖尿病は近年急激に増加しつつあり、2007年の厚生労働省の統計によれば、患者数890万人、予備群1,320万人、合計2,210万人、直近の10年間で61%増とされている。また、糖尿病合併症も増加しており、腎症に起因する人工透析導入は約16,000人、糖尿病腎症による人工透析には年間約500万円を要するとされ、医療費増大の一因をなしている。したがって、糖尿病発症、合併症への対策は糖尿病臨床上最も重要なポイントとなっている。

糖尿病は「金匱要略」での“消渴”に相当し、八味地黄丸が有効処方とされている。

1984年私共は「牛車腎気丸」（八味地黄丸+牛膝+車前子）が糖尿病神経障害に由来するしびれに有効であるとする臨床成績を本邦で初めて報告した（佐藤祐造他:和漢医薬学会誌1:62,1984）。また、牛車腎気丸（G群）とメコバラミン（M群）とのランダム化比較試験を実施し、しびれに対する自覚症状改善度がM群よりG群で有意に大である事実を明らかにした（坂本信夫他:糖尿病 30:729,1987）。

インスリン抵抗性と漢方

インスリン抵抗性は2型糖尿病やメタボリックシンドロームの成因として重要な役割を果たしている。

インスリン抵抗性に及ぼす漢方薬の効果を正常血糖クランプ法と分子生物学的な手法を用いて解析を行った。

動物実験成績

牛車腎気丸（800mg/kg）はSTZ糖尿病ラットのインスリン抵抗性を改善させるが、その発現にはNOが関与している（Hu X et al: Diabetes Res Clin Pract 59:103, 2003）。また、STZ糖尿病脾腹筋のインスリン受容体（IR- β ）のチロシンリン酸化、インスリン受容体サブストレイト1（IRS-1）の蛋白量、チロシンリン酸化が関与している可能性（Qin B et al: Evidence-based. Altern.Med 1:269, 2004）も示唆された。

また、桂枝加朮附湯にもインスリン抵抗性改善作用のあることを認め（Qin B et al: Life Sci 73:2687, 2003）、NOの関与とインスリンシグナル伝達系のメカニズムも解析した。さらに、桂枝加朮附湯の構成生薬である桂皮にも、ほぼ同様の効果を容量依存性に認めた（（Qin B et al: Diabetes Res Clin Pract 62:139, 2003, Qin B et al: Horm Metab Res 36:119, 2004））。

臨床的検討成績

2型糖尿病患者に牛車腎気丸（7.5g/日）を1ヶ月経口投与したところ、HOMA-R（インスリン抵抗性）は 4.78 ± 0.37 から 4.02 ± 0.25 へと有意に低下した。投与中止1ヶ月後には投与前と同一レベルとなった。正常血糖クランプ法（インスリン注入量 $400\text{mU}/\text{m}^2/\text{分}$ ）でもグルコース注入率（GIR）は $5.2 \pm 1.3 \rightarrow 5.5 \pm 0.7\text{mg}/\text{kg}/\text{分}$ と有意に増大した（Uno T et al: Diabetes Res Clin Pract 69:129, 2005）。

すなわち、中国の古典「済生方」に記載された老人のしびれ、排尿困難等に使用されてきた牛車腎気丸について、私共は糖尿病神経障害に有効である事実を、また、2型糖尿病予防・治療に有用であるとの新たな適応を見出した。今後もこのような「創薬」を他の漢方薬についても行いたいと考えている。

私は「入門漢方医学」（南江堂、2002）、「Introduction to KAMPO」（Elsevier, 2005）の編集委員長を務め、今回も第61回学術総会会頭を務めさせていただいた。今後も微力ながら本学会、関係方面の研究・臨床の進歩に貢献したいと考えており、ご支援をお願いする次第である。

略歴

1970（昭和45）年3月	名古屋大学大学院医学研究科（内科学第三）修了	2004（平成16）年4月	名古屋大学名誉教授 愛知学院大学教授心身科学部健康科学科
1987（昭和62）年1月	名古屋大学教授総合保健体育科学センター	2007（平成19）年4月	愛知学院大学心身科学部長